

保存版

このハザードマップは令和8年に新しく作成しました！

京都市 北区

内水ハザードマップ



京都市内水ハザードマップについて

「京都市内水ハザードマップ」は、想定し得る最大規模の降雨により下水道や水路が氾濫した場合の浸水範囲や深さなどの情報をまとめたマップです。

このハザードマップは、市民の皆様は日頃からの備えや、大雨などの際に適切な避難行動をとっていただくために作成したものです。

※1000年確率降雨（147mm/h）に該当し、下水道の整備目標である10年確率降雨（62mm/h）を大幅に上回ります。

京都市内水ハザードマップの使い方

（1）水害について知り、身の周りの浸水リスクと、いざという時の避難先などの取るべき行動を確認しましょう。

（2）防災情報や避難情報を調べる方法を知り、水害が発生した時に取るべき避難行動や心構えを確認しましょう。

（3）水害に対して日頃からできる備えについて知りましょう。

●地図についてお問い合わせ ●避難場所についてお問い合わせ

京都市行政局防災危機管理室 TEL 075-222-3210 北区役所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-432-1197

発行：令和8年6月／京都市行政局防災危機管理室 京都市印刷局 第080583号

避難情報と住民がとるべき行動

水害の危険性が高まった地域には避難情報が発令されます。その地域にいる人は、早めに避難しましょう。一方で、局地的な大雨や浸水では避難情報が事前に出ない場合もあります。普段の雨と違うと感じたら、早めに身の安全を守る行動をとりましょう。

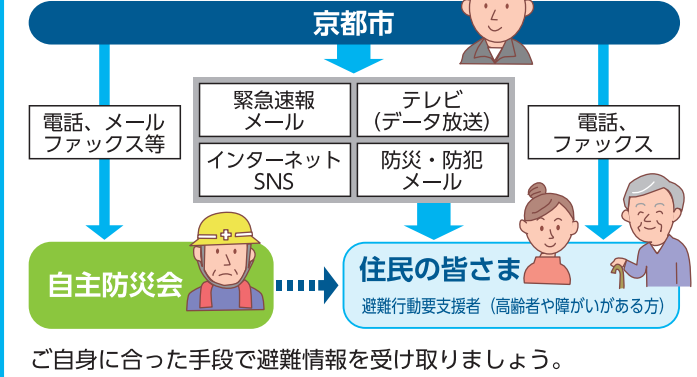
警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
状況	今後、気象悪化のおそれ	気象状況の悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または切迫した状況
チェックすべき情報	天気予報 雨雲の動き 早期注意情報	大雨注意報 氾濫注意情報 （氾濫警戒情報）	大雨警報 氾濫警報 （氾濫警戒情報）	大雨危険警報 氾濫危険警報 （氾濫警戒情報）	大雨特別警報 氾濫特別警報 （氾濫警戒情報）

※氾濫注意報「洪水予報河川」・氾濫注意情報「水位周知河川」は、いずれも氾濫注意水位に到達したときに発表されます。氾濫警戒報「川」・氾濫警戒情報「川」は、いずれも避難判断水位に到達（又は見込み）したときに発表されます。氾濫危険警報「川」・氾濫危険情報「川」は、いずれも氾濫危険水位に到達（又は見込み）したときに発表されます。



避難情報は警戒レベルの順番どおりに発令されない場合もあるのでご注意ください。これらの情報等をただ待つだけでは、いつのまにか状況が悪くなり、避難のタイミングを逃してしまおそれがあります。自ら気象情報や周りの状況に注意し、行動するよう心がけましょう。

避難情報の伝わり方



避難のタイミングを逃したら



水害について知ろう

水害にはこの内水ハザードマップで取り扱う「内水氾濫」と「洪水（外水氾濫）」の2種類があり、それぞれ浸水がおきる場所や発生のメカニズムが異なります。2つの水害を正しく理解して、日頃の備えや水害発生時の適切な避難行動につなげましょう。

内水氾濫がおきるしくみ

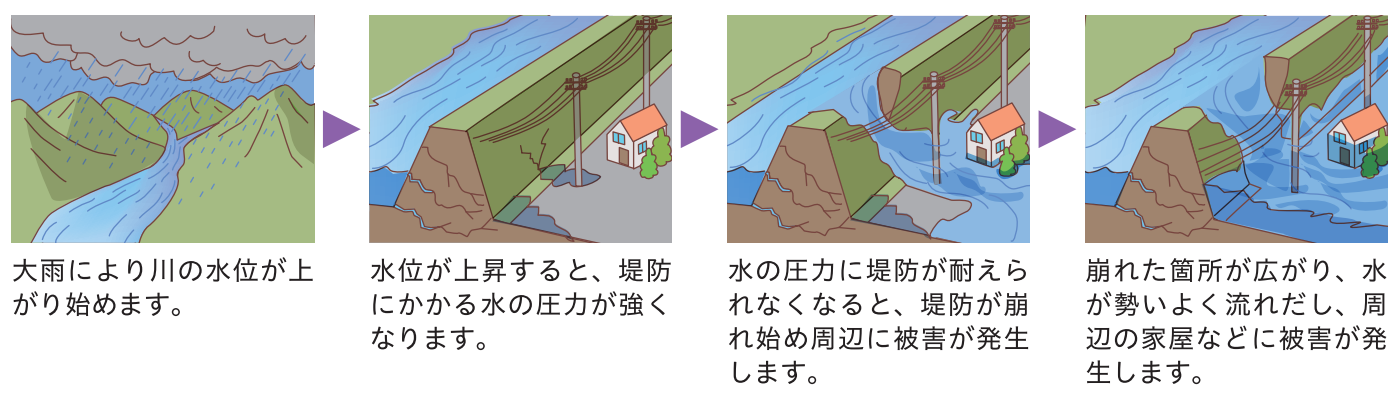
内水氾濫は、大雨が降り、下水道や水路の排水能力を超えたときや、雨水の排水先となる川の水位が高くなり排水ができなくなることで発生する水害です。短時間であっても強い雨が降ったときなどに発生しやすい特徴があります。特に水路沿いや、アンダーパスやくぼ地などの標高が低い場所、地下街は水害がおきやすい箇所です。



さらに大雨が続くと洪水（外水氾濫）の危険が高まります

洪水（外水氾濫）がおきるしくみ

洪水（外水氾濫）は、大雨で川の水があふれて流れ出し、川の外側でおきる水害です。あふれた水の流れて堤防が決壊するおそれもあり、家屋が倒壊したり押し流されるような大きな被害が発生することがあります。



大雨が降り続けると、内水氾濫と洪水（外水氾濫）がどちらも発生することがあります。一般的に洪水（外水氾濫）の方が水害の規模が大きいため、内水氾濫だけを想定した避難行動では洪水が発生したときに対応できないおそれがあります。また、大雨の際には土砂災害が発生するおそれも高くなるため、身の周りや避難経路上にある土砂災害警戒区域にも注意する必要があります。

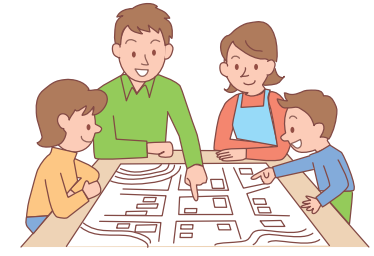


洪水ハザードマップも確認しよう！

水害リスクと避難行動を確認しよう

水害リスクと避難場所の確認

- このハザードマップを利用して、自宅や身の周りの浸水の深さや範囲、適切な避難行動を確認しましょう。
- 立退き避難が必要になる場合にも備えて、避難場所の場所や避難経路をハザードマップで確認し、複数の避難先を把握しておくことで避難の安全性が高まります。
- 水害の状況により、市が発令する避難情報や、開設される避難場所は異なります。避難の際は、市のHPなどで状況を確認しましょう。



適切な避難行動を確認

想定される浸水の深さと、建物の場所・高さによって、適切な避難行動は異なります。自分にとって正しい避難行動を知りましょう。

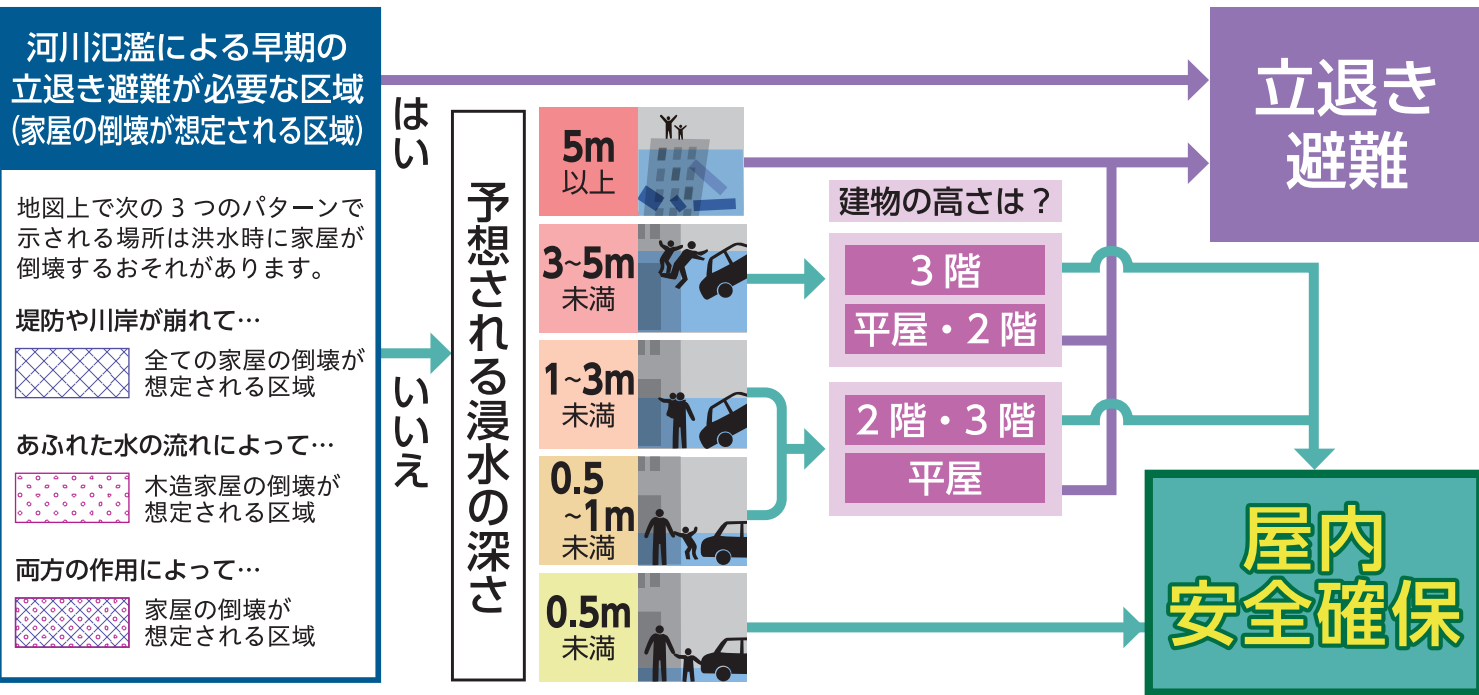
- 強い雨が短時間で収まる時は、浸水が発生しても建物の上層階に避難することで安全を確保できる場合があります（垂直避難）。

屋内安全確保（垂直避難）

内水氾濫は、浸水が発生しても建物の上階に避難することで安全を確保できる場合があります。裏面のマップで身の周りで想定される浸水深を確認しましょう。浸水深がひざ下未満であっても、水の流れによっては歩行が困難となります。無理に屋外へ移動せず、今いる建物の高所に垂直避難をしましょう。なお、平屋の場合は、早い段階で最寄りの高く頑丈な建物等に避難しましょう。



- 強い雨が長時間続く予報の場合は、洪水（外水氾濫）の危険が高まり、避難情報を出すおそれがあります。洪水時のように家屋倒壊の危険性がある場所に住む人は早めに立退き避難をしましょう。

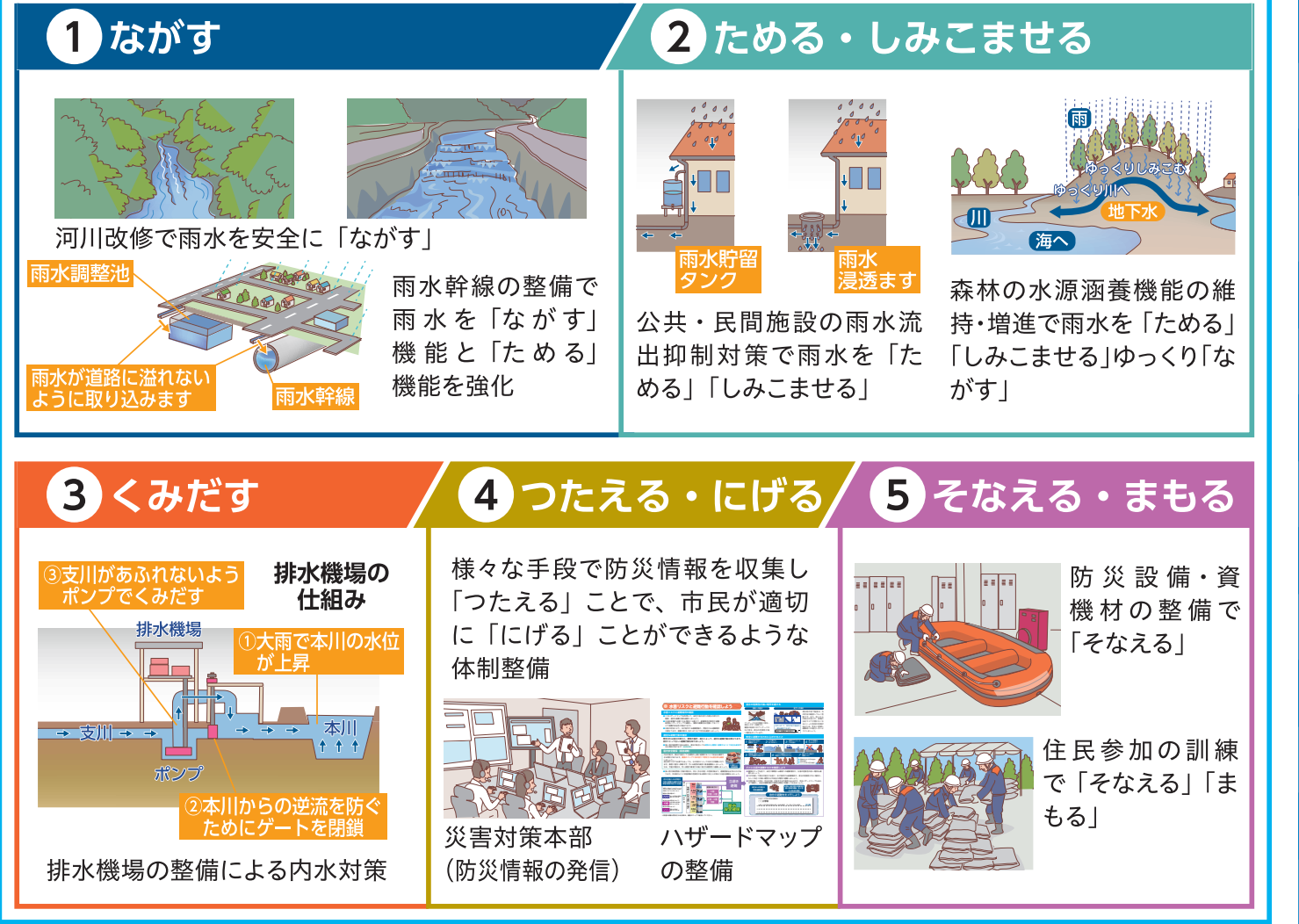


※家屋の倒壊が想定される区域は、裏面のマップで確認してください。

浸水対策の取組みを知ろう

雨に強いまちづくり

京都市は皆様の生命と財産を守るために、ハード対策とソフト対策を組み合わせた総合的な対策により、浸水被害の最小化を実現する「雨に強いまちづくり」を推進しています。



マイ・タイムラインを作ろう

災害時に自分自身がとるべき行動をあらかじめ決めたものが「マイ・タイムライン」です。

- いつ起こるか分からない水害に対して平時時からマイ・タイムラインを準備しておくことで、逃げ遅れを防ぎご自身や家族の安全を確保することにつながります。
- 市では皆さまのマイ・タイムライン作成を支援する特設ページを公開しています。ぜひアクセスしてみてください！

京都市マイ・タイムライン



浸水の危険性が高い場所を避ける



安全に避難するために心がけること

- 1 浸水が地まる前に避難をしよう
- 2 川や橋には近づかない！
- 3 側溝やマンホールには注意！
- 4 車での避難はひかえよう！
- 5 高齢者や障がいのある方などの避難の手助けを！
- 6 1人での避難はひかえて周囲の人に声をかけよう
- 7 動きやすい格好で避難しよう！

どこに立退き避難するかを確認しよう

- 裏面のマップを見て、自宅や職場から最寄りの避難場所や、水害の危険性の低い場所を確認しましょう。
- 川が氾濫して浸水が発生する前に、市が指定する避難場所や、浸水の危険性がない場所か、もしくは近くの高い建物などの安全な場所に避難しましょう。
- 大雨が続くと洪水（外水氾濫）が発生する可能性もあるので、洪水ハザードマップもあわせて確認し、安全な避難場所や経路を事前に把握しておきましょう。

お住まいの学区の緊急避難場所

○小学校

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

記入欄

日頃から備えよう

非常持ち出し品と備蓄の確認

- 避難時の非常持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 非常持ち出し品は必要最小限のものを選び、1つのリュックサックに収まる程度にしましょう。
- 在宅避難に備えて、食料品や飲料水などは普段から多めに常備し、使いながら補充する「ローリングストック」を行い、常に利用できる状態を保ちましょう。

非常持ち出し品（二週）	非常持ち出し品（二週）	非常持ち出し品（二週）
☐ 飲料水 避難時に使用する分を覚えて1人1日3リットルは安心です。	☐ 携帯トイレ（避難時等）	☐ 食料品（自分）
☐ 主食 お米や、パン、麺類など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）
☐ 主食 レトルト食品や缶詰など	☐ 避難用靴（靴下）	☐ 避難用靴（靴下）

浸水への備え

身の周りの対策で被害を防ぐ

- 側溝や雨水ますを掃除し、ゴミや落ち葉で詰まらないようにしましょう。また、ふたの上に車両乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。
- プランターやゴミ袋などを利用して作る水のうを並べてシートで包むことで、浸水被害を軽減できます。
- 大雨の際は、トイレ、風呂場、洗濯機などの排水口から下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

避難訓練に参加する

京都市では、行政と住民が一体となった訓練や、自主防災会による体験型の防災訓練が行われています。訓練に参加して、防災意識や災害時の実行力を高めましょう。

地域で助け合う（共助）

皆さまの周りには高齢者、障がい者、乳幼児や妊婦、外国人の人々は、地域の協力で安全確認や避難施設への移動を支援しましょう。